



編さん便り

Chiba-shishi News Letter NO.13 2014.9

写真

新聞にみる千葉のむかし

だらだら祭り



夏休みも終わり、お祭りも一段落した感があります。自分の住んでいる地域の「お祭り」は、楽しい以上にやはり特別な思い出のあるものです。千葉市民にとっての特別な「お祭り」、何があるでしょう？千葉神社のお祭り（寒川の御浜下りも含む）、稲毛浅間神社のお祭り、三山の七年祭（来年ですね！）…大きなお祭りがいくつもありますが、今回は、「ちょっと前」の絵はがきなどの写真から、千葉神社の祭礼を簡単にご紹介します。

そもそも千葉神社（妙見社）の祭礼は大治2年（1127）に始まったとされています（「千学集」「千葉妙見大縁起絵巻」「御浜下り」とその送り舟としての「結城舟」は天福3年〈1233〉に始まったとされる）から、非常に歴史のある祭礼です（ご承知のとおり、千葉神社は、妙見信仰、つまり北斗七星をまつる千葉氏ゆかりの神社です）。

小池淳達氏は、その著書『蓮池・女人聞き書抄』で、千葉神社の祭礼「だらだら祭り」について、「八月十六日から一週間もだらだらと続くので、一般にこう（だらだら祭り・著者註）と呼ばれている。（中略）戦前の祭礼は、市内の十六町会が、御輿は八年に一度、太鼓は十六年に一度という『年番』で受け持つことになっていたが、その祭礼の圧巻はなんといっても御輿のご巡行であったろう」と記しています。

下・右上は郁文堂が発行した「千葉神社祭礼記念」の絵はがき（年不詳、明治末ごろか）です。



神輿を担いで練り歩く人々の姿や、かわいらしい手古舞のこどもたち、祭り装束に身を包んだ人々の姿がみえます。こうした絵はがきの発行があったことから、当時の人々の千葉神社の祭礼に対する思い出の強さがうかがえるようです。20日には神輿は寒川の人たちによって担がれ、出洲にあった大鳥居から海に入ってもまれました（これを「御浜下り」といいます）。最終日の22日になって、千葉神社の山門前で年番の町から院内町の手に神輿がわたり、ご巡行が終わります。

次の写真は、どちらも昭和30年ごろの祭礼の様子です。先ほどの神輿とは違う、少し小さな神輿を担いだこどもたちの姿が見えます。こども神輿なのでしょうか。随行するこどもが持っている大きな団扇には、「吾妻二」と書かれています。この年の年番なのでしょう。時代によって、祭礼も少しずつ様変わりしているようです。

今年は残念ながら終わってしまっていますが、ご興味があれば、ぜひ来年、実際にご覧ください。今回ご紹介したような「ちょっと前の」お祭りの風景と比べてみても面白いのではないのでしょうか。



事務局より

今回、市史協力員（古文書）の皆さんに整理していただいた襖の下張り文書（幕張町長澤家）は、平成25年4月に千葉市立郷土博物館が採集した史料群です。下張りから剥がした史料の接合は大変難しく、気を遣う作業ですが、こつこつと地道に丁寧に接合していただき、若干ではありますが、内容がわかる史料群となりつつあります。詳細は別途ご報告できればと思います。今回はその作業について、レポートしていただきました（整理作業・原状などは裏面見開きをご参照ください）。

幕張町は、江戸時代には馬加（まくわり）村といいました。馬加村には、江戸湾沿いに江戸から房総へ向かう街道（房総往還）に沿って店や宿などを含む集落が形成されていました。馬加村と隣の検見川村は、房総往還の継場でした。継場では、街道を通る公的な人馬（あるいは御用状）の行き先や経路・おおまかな内容などを書き留めていて、その帳簿が馬加村に残されています（『往還御用留』：『千葉市史 史料編 9』・いまむかし19号に一部掲載）。今回の下張り文書に残されていた史料の多くは、これとよく似た体裁のもの

でした。多くは線で抹消されており、内容を正式な帳簿に写し終え、反古紙となったものと考えられます。このことから下張りを所蔵していた長澤家は「宿役人」（帳付などの役職か）を勤めていたと考えられます。宿役人は、村役人を兼ねることが多くあります。いまのところ村方三役のなかに所蔵者の家を確認できていませんが、史料に残された他の情報からも、馬加村の中心的な家だったと類推されます。

今回の史料群もそうですが、襖や屏風などの下張りには、そのお宅にあった昔の書類などを使うことが、ままあります。一方で経師屋さんが自分で持ってきた紙を使うこともあり、こうした紙は、古紙を集め、売る業者から手に入れることもあるため、かなり離れた場所のものが紛れ込むことがあります。今回の長澤家の中にも近代の川上村（現八街市）の戸籍関係の帳簿などがありました。

皆さんのお宅の襖にも、「古文書」が眠っているかもしれません。ゴミとして捨ててしまう前に、もう一度確認してみませんか？

平成26年度後期 千葉市史主催の講座のご案内

中級古文書講座

古文書に慣れ、ある程度読める方を対象とした講座です。テキストは江戸時代に書かれた古文書の複写。全6回。講師は後藤雅知先生（立教大学文学部教授、千葉市史編集委員）。日程は11/11・11/18・12/9・12/16・2015/1/20・1/27（何れも火曜日）。13:30～15:30を予定。

定員40名、会場は千葉市立郷土博物館講座室。

※市政日より（10月15日号）にて募集します。

【申込方法】

往復葉書・電子申請にてお申し込みください。

その際、**住所・氏名（ふりがな）・年齢・性別・電話番号**を明記してください（葉書の場合、一枚につき一人の応募です。一枚で複数名の応募はできません）。電子申請の方法を含め、その他詳細は市政日より・千葉市立郷土博物館HPにてご確認ください。

http://www.city.chiba.jp/edl/kyodo/kyodo_top.html

※申込み多数の場合、抽選となります。

平成26年度企画展

絵図からみた千葉市の江戸時代

会期：（開催中）～11月16日（日）

会場：千葉市立郷土博物館 2階展示室

開館時間：9:00～17:00（入館は16:30マデ）

休館日：月曜（11/3は臨時開館）・祝日、

9/16（火）・10/14（火）・11/4（火）・11/5（水）

江戸時代の千葉市域の村々を、当時の人々が描いた代表的な絵図資料を使ってご紹介します。現在まで残る江戸時代の名残を見つけてみませんか？

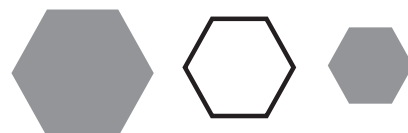


作業の前段階

何枚も重なって貼り付けられている襖の下張りを、一枚ずつに剥がします。一枚はそれぞれ、複数枚の状が貼り付けられて襖一枚の大きさになっているため、バラバラにしていきます。



搬入時の状態

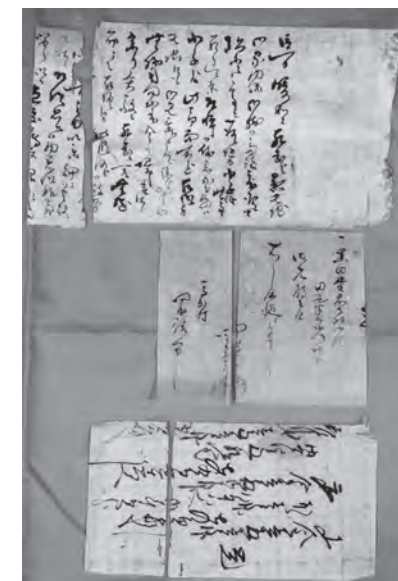


一次仕分け

紙色・サイズ・形態などで粗くグループ分け



並べて更にチェック。



接合できた文書（参考・3点）

ボランティアレポート 古文書整理の現場から

「襖の下張り」だって立派な「史料」です!!

目録作成

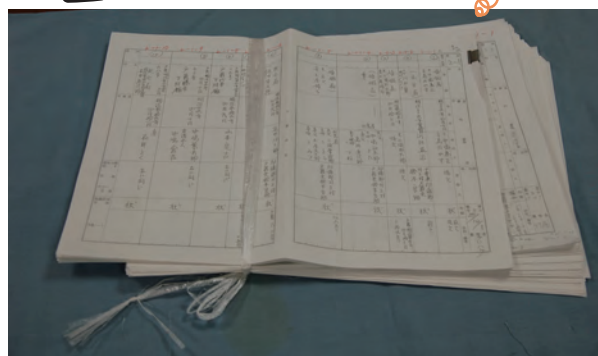
史料の情報をとって、リスト化します
(表題・作成者・宛先など)



目録とり

目録完成…?

もう少し直し
が入ります…



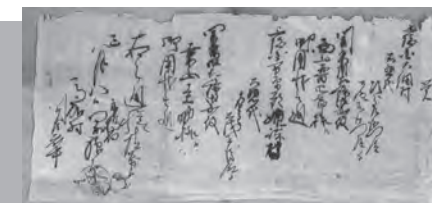
完成?した目録

二次仕分け

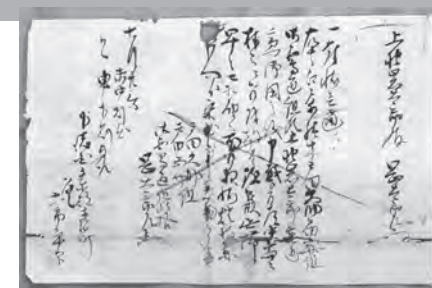
筆跡・形態・おおその中身などでグループ分け



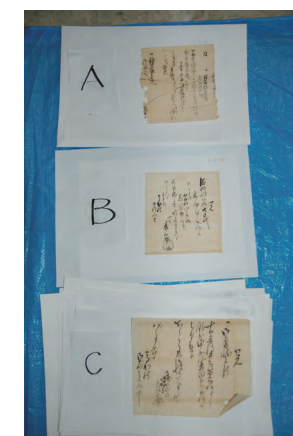
グループ分け終了



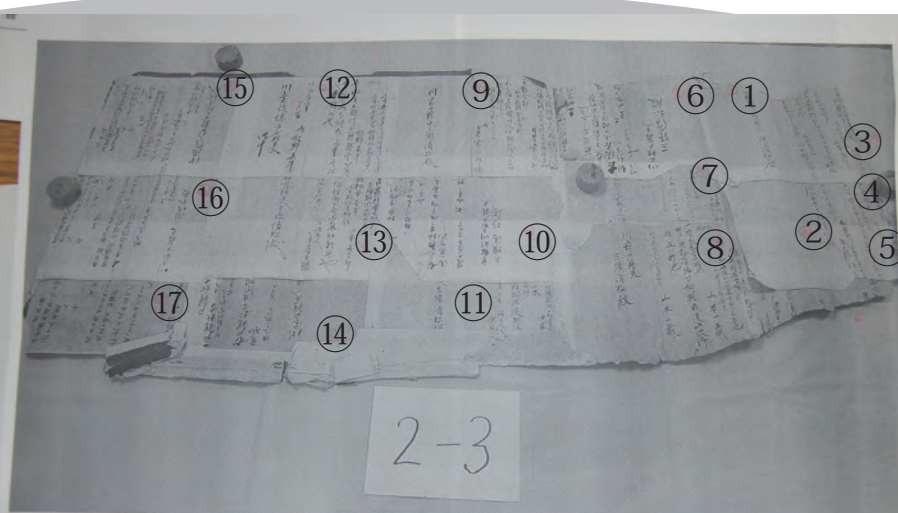
送り状の例



抹消された文書



グループによって枚数に差があります



近代の紙はもろいので、剥がれにくい
ものが多くあります。

どうしても剥がれないものは写真をと
り、そこに番号をつけて対応しました。



『千葉市史』編さんのため、古い資料・昔の写真などの情報を集めています。ご家庭で撮影されたスナップ写真も、当時の「千葉」をみることで貴重な資料です。いわゆる「古文書」も大歓迎です。聞き取り調査も行ってみたいと思っています。戦時中の体験、幼い頃の記憶など、千葉市域に関してお話しただけの方がおられましたら、ご連絡ください。ご提供頂いた資料、伺ったお話の内容の扱いには、十分配慮致します。皆さまからの情報提供をお待ちしています。

資料、
求ム。